

赤十字 NOW

千葉 | September 2012 Vol. 23

▶ 発行所 / 日本赤十字社千葉県支部 〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7 TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812



わたしの色って何かな？ 澄んだ瞳は未来を見つめる



地域が一致団結して東日本大震災からの復興に取り組む岩手県釜石市。その釜石市にこの夏、赤十字と美術館が初めてタッグを組んだキャラバン隊が訪問し、楽しいアートのワークショップを遠距離出前しました。チーム名は、「夢づくり隊」。会場は、復興に取り組む地域の子どもの笑顔、そしてたくさんの夢のオブジェで溢れました。(2面に詳細記事)



高木美羽ちゃん(釜石小学校1年生)

CONTENTS September.2012 vol.23

2

東日本大震災復興支援
釜石の子どもたちに夢を

3

青少年赤十字
国際交流派遣プログラム
中・高校生がバングラデシュへ

4 イベントレポート

○第33回 九都県市合同防災訓練
○義肢製作所が初の出前教室
「夏休みボランティア体験教室」

5

平成23年度事業及び決算報告

6

イベントプラン
病院まつり「ふれあい広場」
お知らせ
好評発売中の赤十字商品

ねえ見て見て 私の作品!

自慢げな笑顔と夢のオブジェで溢れた「夢つくり隊」

「えーっ、もう終わりなの もっと遊びたい。今度はいつ出来るの?」
 ワークショップに参加した女子児童たちが詰め寄ってきます。
 地域が一致団結して復興に取り組む岩手県釜石市。その釜石市にこの夏、赤十字と美術館が初めてタッグを組んだキャラバン隊が訪問し、楽しいアートのワークショップを遠距離出前しました。
 東日本大震災海外救援金を充てたチーム名は、「夢つくり隊」。
 当支部の呼び掛けに、千葉県立美術館が協力を申し出、釜石市教育委員会が共催、美術教員を目指す千葉大学院生が共感し、将来看護師を目指す成田赤十字看護専門学生も参加するなど、支援の輪が大きく広がりました。
 諏訪赤十字病院の臨床心理士も加わった異色チームは、復興に取り組む地域の子どもの笑顔、そして夢のオブジェをたくさん作りました。



もっともっと高く!少年達の希望は膨らむ

8月7日(火)、8日(水)の2日間、夢つくり隊は、釜石保育園を皮切りに、甲子学童育成クラブ、大町子育て支援センター、釜石小学校放課後子ども教室の市内4会場をマイクロバスでキャラバンしました。
 美術館のワークショップを厳選し、「虹色パレット缶/バッジ」「夢ビルダーカードでオブジェ作り」の2つの創作活動をそれぞれの会場で行いました。



たくさんの作品を丁寧に乾燥看護学生ボランティアが活躍しました



「おーっ」大学院生の驚きの技法に口が開いたまま

「夢の〇〇を作ろう」夢ビルダーカード

直径25cm、10cmの厚紙製の美術館オリジナル円形カードを組み合わせ、オブジェ作りを楽しむ夢ビルダーカード。子ども達の無限の発想を形にしました。「夢の〇〇」を自分のビル、壊れない家にする子ども達のオブジェをはじめ、戦隊ロボットや架空の昆虫など、子ども達の夢のオブジェが会場を一杯にしました。創作活動が継続できるよう6セット12,000枚のカードを、同市教育委員会に寄贈させていただきました。

明るい未来を感じて

大津波を目前に、保母さんに抱きかかえられながら生き抜いた保育園児、教えられたとおりに果敢にも逃げた児童たちも対象の夢つくり隊。隊員は、津波がもたらした破壊とは対極にある、美術の要素を織り込んだ創作活動で、子ども達と楽しい時間を過ごし、創造する喜びを共感することに心がけました。

真剣な眼差しで作品作りに取り組む子ども達の姿に触れ、早期の復興と明るい未来の到来を心から願いながら、夢つくり隊はそのミッションを終えました。

「はっけん!自分色」虹色パレット缶/バッジ

画用紙に水彩絵の具で描画着色したものを、直径54mmの円形に切り抜き、オリジナル缶/バッジに加工するワークショップです。絵の具のにじみやぼかしの技法を駆使しながら、好きな色、模様を描くことで、今の自分を表現することを目標にしました。出来た缶/バッジを胸に、「ねえ見て!」。満足げな笑顔で会場が一杯になりました。



缶/バッジ完成



子ども達の夢で所狭しのカトリック釜石教会(釜石小学校放課後子ども教室)

僕の目、 私の目で見た バングラデシュ

この夏、日本赤十字社千葉県支部では、県内の青少年赤十字メンバーの代表8人を、バングラデシュ人民共和国に派遣しました。

8月1日(水)～8月6日(月)の派遣に参加したのは、青少年赤十字スタディーセンター(リーダー研修)を終えた中学生4人と高校生4人。気候だけでなく言葉や生活習慣の違いにとまどいながらも、バングラデシュ赤新月社※青少年メンバーらとの交流を通して親善を深め、日本赤十字社が同国で行う教育等支援事業の現状を学習してきました。

※イスラム教信仰国では、国民への宗教的な配慮から、名称や標章に赤十字を使用せず「赤新月」を使用します。



日本赤十字社では、2003年度から、モンゴル、ネパール、バングラデシュのアジア3カ国を対象に教育等支援を行い、文房具セットの提供、学校への衛生設備・保健室設置、保健衛生に関する知識の普及などを行ってきました。千葉県青少年赤十字メンバーは、普段から「1円玉募金」に取り組み、毎年300,000円を拠出し、当支部が拠出する資金250万円と併せ、貧困のため満足な教育を受けることのできないバングラデシュの子ども達を支えるこの事業に協力しています。

ダッカ近郊のムンシゴンジ県では、同事業の支援対象となっている学校を訪問。トイレ等の衛生設備のほか、保健室や花壇の設置などによって、衛生・教育環境が向上していることを視察しました。また、地元の生徒1,000人への文房具セットの贈呈式にも参加しました。「1円玉募金によってできたトイレ等を見て、とても感動しました。これからもこの1円玉募金は継続していきたい。」参加した千葉県立富里高等学校2年の三橋桃未さんは、今後の目標を語ります。



笑顔があふれるバングラデシュ青少年メンバー



▲バングラデシュの歴史や文化も学びました
▼イスラム寺院(モスク)等を視察



現地の青少年メンバーとの交流の際には、書道やソーラン節、まるもりダンスなど、日本の文化や流行も紹介。披露するたびに大歓声に囲まれました。「初めはお互い緊張して話せなかったのが、しばらくすると双方の顔から笑みがこぼれてきた。国や言葉が違って、友達になれるんだと実感しました。」と千葉県立茂原高等学校2年の小林圭くんは微笑みます。鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校3年の古瀬一徳くんは、「海外の同世代の人達と関わったことは日本のほく達や現地の人達にとって貴重な体験。だから今回の派遣は将来に繋がる良い体験だと思いました。」と率直な感想を述べてくれました。

バングラデシュ派遣から帰国した8人は、この秋、県内の青少年赤十字メンバーを対象とした報告会で、今回の経験を発表するとともに、途上国支援の必要性を伝えることにしています。



英語でのコミュニケーションにも挑戦

第33回九都県市合同防災訓練に参加

9月1日(土)「防災の日」、第33回九都県市合同防災訓練が開催されました。日本赤十字社千葉県支部、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センターは、千葉県会場及び千葉市会場での訓練に参加しました。

東京湾北部を震源域とするマグニチュード7.3の地震が発生したとの想定のもと、県や市だけでなく、消防や自衛隊、医師会やボランティア団体、地元住民の方々など、県会場では約130機関、市会場でも約50機関という多くの関係機関が参加しての合同訓練となりました。



自衛隊炊事車から湯気が沸きのぼる訓練会場

県会場では災害包装食2,000食の炊き出しを行いました



「ほくもやってみる」家族でAED体験



医療救護訓練の現場には緊張感が走ります

訓練内容も、医療救護のほかに、応急給食、帰宅困難者対策、避難所運営訓練など多岐にわたり、成田赤十字病院の医師・看護師等から構成される救護班、千葉市や市川市の赤十字地域奉仕団、赤十字防災ボランティア、その他多くの赤十字ボランティアがさまざまな場面で活躍しました。

また、防災フェア会場では、見学に訪れた多くの市民の方々が、救急法指導員資格をもつ赤十字ボランティアの指導を受けながら、心肺蘇生・AEDの体験に挑戦しました。



◀きゃ、冷たい！
石こうでの足の型取り体験



▲▼模擬義足での歩行体験
腰骨を触って左右の高さを調整します

義肢製作所が初の出前教室

柏市 小学生のための夏休みボランティア体験教室に協力

7月25日(水)と30日(月)の2日間、日本赤十字社千葉県支部義肢製作所(小林恵司所長)は、柏市で開催された「小学生のための夏休みボランティア体験教室」に協力しました。

この体験教室は、社会福祉法人柏市社会福祉協議会が、福祉教育の一環として毎年夏休みに開催しているもので、2日間で、柏市内在住の小学5・6年生約20人が参加しました。

今年で創立60周年を迎える当支部義肢製作所は、日本赤十字社が運営する唯一の義肢専門の福祉施設として、年間600人を超える見学や10校を超える中学生職場体験を積極的に受け入れ、福祉教育やキャリア教育に広く協力していますが、今回のような出前教室は初めての試みでした。

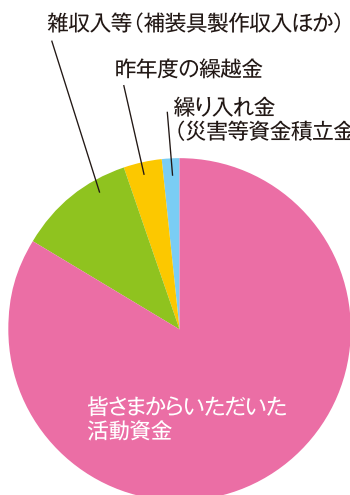
当日は、参加した小学生自身が石こうによる足の型取りや、義足装着の体験を行うとともに、事故で両脚を膝下から失った脇本富美子さんのご協力を得て、ご本人からリハビリの努力・義肢製作と装着後の生活など、自身の体験を語っていただくプログラムとなりました。

▼真剣な表情で型取り体験



平成 23 年度 日本赤十字社千葉県支部 一般会計歳入歳出決算のご報告

一般会計 歳入



皆さまからいただいた活動資金	638,157,957円
雑収入等(補装具製作収入ほか)	84,903,624円
昨年度の繰越金	25,926,900円
繰り入れ金(災害等資金積立金より)	12,374,401円
合計	761,362,882円

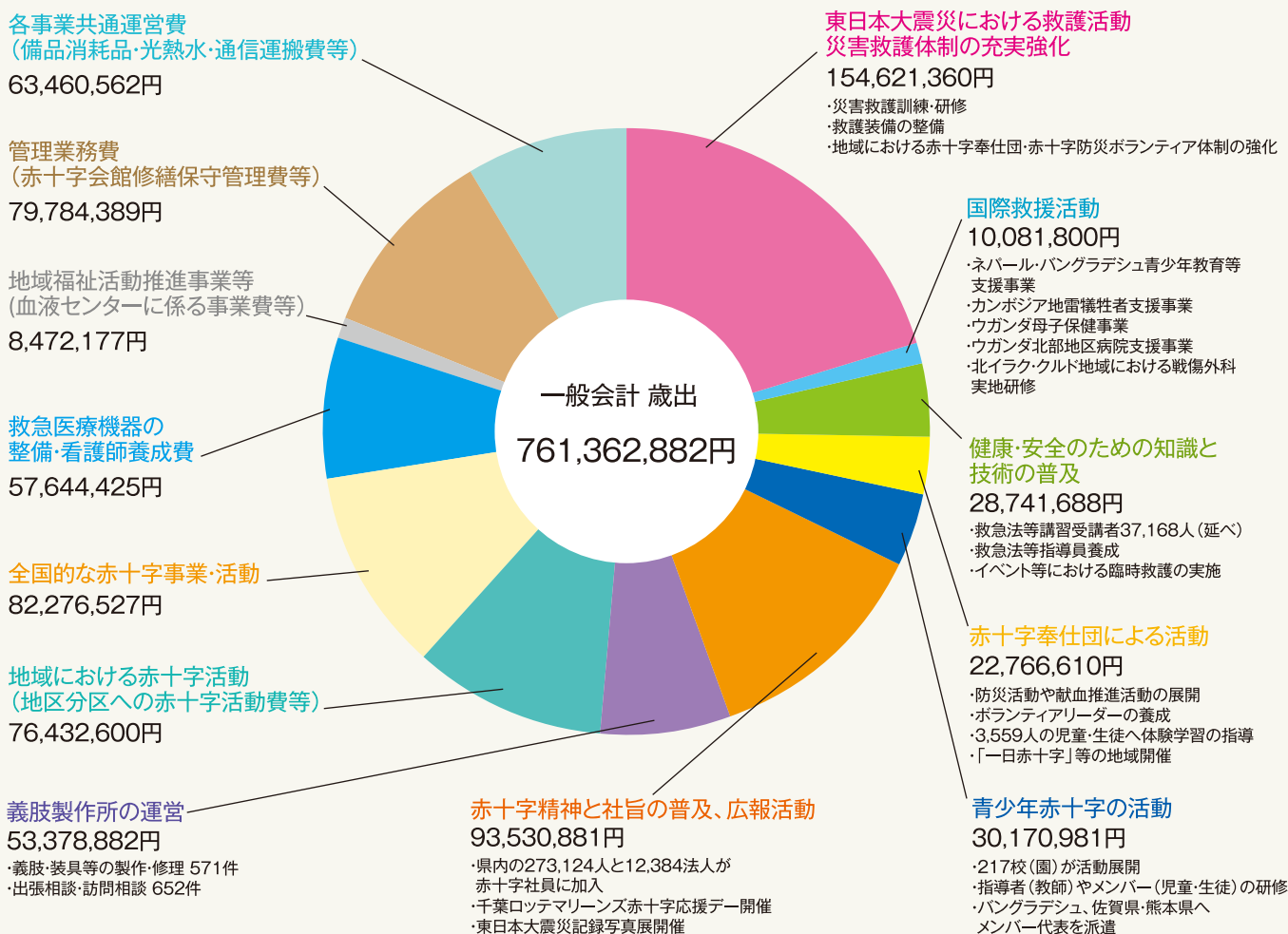
日頃から県民の皆さまには赤十字の活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

6月7日(木)、支部にて開催された日本赤十字社千葉県支部評議員会において、平成23年度歳入歳出決算が承認されましたので、ご報告いたします。

評議員会は、社員の皆さまの中から選出された評議員をもって組織されています。

今後も業務の効率化を図りながら、赤十字事業の充実と発展に努めてまいりますので、皆さまの更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

一般会計 歳出



※赤十字病院、血液センターについては、別会計となっております。

病院まつり「ふれあい広場」開催のご案内

病院まつり
「ふれあい広場」イメージ

赤ちゃんの
沐浴体験



子ども
救護員体験



地域の皆様と病院職員の交流を通じて、赤十字病院を知っていただくとともに、日頃お世話になっている皆様に感謝する機会とするために開催いたします。

是非、ご家族やご友人をお誘いのうえ、ご来院ください。

日時

平成24年10月27日(土)
10:00~14:00

場所

成田赤十字病院
成田市飯田町90-1
正面玄関ロータリー A棟1階エントランスホールほか

入場無料

内容

- 院内探検ツアー
 - 健康相談と各種測定
 - ミニ赤十字講習会
 - 復興支援模擬店
 - 救護・救援写真展
 - 公開健康講座「予防接種について～赤ちゃんの健やかな成長のためにできること～」
新生児科部長 戸石 悟司
- そのほか、各種相談、展示コーナーなど盛りだくさん!!

■お問い合わせ先 成田赤十字病院 Tel 0476-22-2311 (代表) ホームページ <http://www.narita.jrc.or.jp/>

お知らせ

好評発売中の赤十字商品!

ピュアモルトボールペン

ナチュラル・ブラウン



ウイスキーの樽材として使われていた樹齢100年以上のオーク材。
50年にわたりじっくり原酒を熟成させ、自らも風合い豊かに熟成したその材を、丁寧に削り出してナチュラルな一本の軸に仕上げました。

手にしっくりとなじむ木の優しい質感とぬくもりは、使い込むほどに味わい深さを増していきます。

oak wood premium edition は特に厳選された材を使用し、金属表装の質感や重量バランス等、細部の仕上げまで気を配ったこだわりの逸品です。

ピュアモルトボールペン(ナチュラル) 8895
ピュアモルトボールペン(ブラウン) 8896 価格 各480円(送料別)

ご購入を希望される方は、直接(株)日赤サービスまでお申込みください。
(ご照会・ご注文は) (株)日赤サービス Tel:03-3437-7514 (商品担当)
<http://www.nisseki-service.com/>

または

